

<p><b>奈良市</b></p> <p><b>手をつなぐ親の会だより</b></p>	NO 353	平成29年7月14日(金)	
	発行 奈良市手をつなぐ親の会 会長 小西 英玄		
	所在地 〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内		
	Tel0742-71-0770	<a href="http://naraoyanokai.info/">http://naraoyanokai.info/</a>	

## 仲川げん市長ご当選おめでとうございます。



7月10日午前2時6分。今、テレビで仲川候補に当選確実が出ました。

これから4年間仲川市長のもと、活動が始まることになりました。

改めて、「選挙とは？」を考えさせられた市長選挙でした。

政策に大きな違いが見つからない4候補。当落の違いは？

「選んだ責任」「選ばれた責任」をお互いがしっかりと果たすことが、奈良市の未来につながるのでしょうか？  
票差2,022の意味。

私たちの子どもを託せる奈良市になるように、私たちの願い、気持ちをしっかりと伝えていきたいと強く思っています。

何も変わらない4年間にならないよう、共に活動できるパートナーでありたいと願っています。

7月3日・4日 東京で開かれた「全国知的障害者関係施設長等会議」に参加してきました。

時代が変わった。

福祉が完全にかたちを変えたと感じました。

社会保障制度としての福祉が、財政施策としての福祉に生まれ変わりました

平成30年4月には介護・医療保険 総合支援法等の報酬単価の見直しがあります。それと併せて総合支援法3年後の見直しがあります。

特に感じられたのは、『公助』の色が一段と薄くなったことです。

食事提供体制加算は本来公的福祉が提供するものではない。

利用人員の増も質の向上もないのに、報酬改定で財政支出が増となるのはあり得ない。

成績主義の厳格化→事業継続はできなくても良い→事業所の数の確保から質の確保へなど、財務省と厚労省の力関係がより明確になり、財政施策誘導の色がより濃くなる傾向を感じ取りました。

「新しい地域包括支援体制の構築」として、これまで高齢者施策における「地域包括ケアシステム」構築や生活困窮者に対する「生活困窮者自立支援制度」の創設など各制度においても、支援の包括化と地域連携、ネットワークづくりを推進しています。

今後、地域包括ケアシステムなどを確実に進めつつ、こうしたコンセプトの適用をさらに広げ、多様なニーズを掬いとる「全世代・全対象者型地域包括支援体制」を構築していく『我が事・丸ごと』地域共生社会実現が明確に出てきました。

**また、障がいをもつ人たちが置いてきぼりかなあ**